

第 1 回 多 治 見 市 地 域 情 報 化 推 進 懇 談 会 会 議 録

日時：令和元年 8 月 30 日（金）

午後 14 時 00 分～

場所：駅北庁舎 4 階第 2 会議室

1. 開催にあたって（事務局説明）
 - (1) 委員の変更について
 - (2) 懇談会の進め方について
2. 概要及び上位計画との関係・現状など（事務局説明）
 - (1) 概要説明【資料 1】
 - (2) 国・県の動向について【資料 2】
 - (3) 現状分析について【資料 2】
3. 多治見市における情報化について（事務局説明）
 - (1) 第 3 次情報化計画の進捗状況について【資料 3】
4. 市民アンケートの実施について（事務局説明）【資料 4】
5. その他

事務局： 定刻になりましたので、ただいまから令和元年度の多治見市の地域情報化推進懇談会を始めさせていただきます。本日は本当にお忙しい中、足元の悪い中、ご出席していただきましてありがとうございます。それでは会に先立ちまして企画部長の鈴木からご挨拶をさせていただきます。

事務局： みなさんこんにちは。企画部長の鈴木と申します。本年度の第 1 回になります地域情報化推進懇談会にお集まりいただきましてありがとうございます。この委員会も 2 期目ということで皆さんのほとんどの方が 4 年目を迎えることとなりますが、4 年前に第 3 次の情報化計画の冊子を皆さんで議論して作っていただきました。3 年が経ちまして計画期間が終了するということで今年度 1 年間をかけて、また新しい計画を作っていこうということになります。皆さんにはこの計画をどうしていくかということをお話し合っていたいただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。多治見市では現在市の最上位計画でもある総合計画の見直しを行っています。ほぼ原案がかたまってまいりまして 12 月議会に提出して OK が出れば来年の 4 月からスタートします。その中の個別計画としてこの情報化計画が進められています。今回の総合計画の前段で今後の方向性として、S o c i e t y 5 . 0 という言葉を入れさせていただいています。これは国の方が提唱して進めていこうということになっており、AI やロボット化、5G などを活用しながら、多治見市でもそういったことを踏まえてやれることはやっぺいこうというような方向でいます。今後の情報化計画の 4 年間の中でさらにそういったことを詳しくやれるのかどうかということも話し合っていきたいと思っております。

事務局： 私、本日進行をさせていただいております課長の渡辺と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

1. 開催にあたって（事務局説明）

事務局：これから議事に入っていきます。進行の方は会長にお願いいたします。

会長：あいさつ

会長：それでは「2. 概要及び上位計画との関係・現状など」を事務局の方からご説明をお願いします。

2. 概要及び上位計画との関係・現状など（事務局説明）

会長：ありがとうございました。委員の皆様何かご意見ありますか。

会長：ちょっと私が感じたことは、インターネットの利用ですが、今後も現役世代が高齢者世代になっても5～10%の人は使わなくなっています。だいたいその通りになっていると感じました。P32のAIにおいて自動化してほしいとありますが、よく言われているのは、監視・検査業務がなくなっていくということです。現状のAIが一番得意なのが異常を見つけることです。画像認識率はほぼとなっており、人間が見て認識することを超えています。監視業務、検査業務はAIの方がすぐれています。

委員：資料1の「3. 次期計画の方向性」で“先端技術を研究する”とありますが、先端技術を本当に研究しますか。

会長：地域情報化という視点からすると、先端技術を研究・開発するということは大変難しいことだと思います。AIや5Gといった最先端技術でいかに企業を豊かにしていくかということになると思います。

事務局：そういった理解でよろしいでしょうか。

委員：はい、結構です。

会長：それではつづいて現行計画が計画期間の最後の年となっています。計画の状況について、次第3番目の「3. 多治見市における情報化について」を事務局の方からご説明をお願いします。

3. 多治見市における情報化について（事務局説明）

会長：進捗状況については、施策継続中のABCということなので、予定通りにいけば目標及び終わるのではないかという見通しですね。そういう意味では平成31年度末に未達というものは無いという理解で良いか。

事務局：基本的にはそういう方向性でいいと思います。逆にできなかったことはしっかり課題としていきたいと思います。

会長：わかりました。そういった意味では計画の目標として掲げて達成というものは、ほぼできるのだらうということですが、この計画は3年前に作りました。3年前の言葉ではこういう目標を立てて、その通りにやりました。ただ3年間の状況の変化で、この言葉通りにやったといしても当初の願いは実現できなかったということは、おおいにあることなので仕方のな

いこととはいえ、そういったところは感じますか。

事務局： 前回の3月の懇談会の時にもこの話題が出ました。実際にはアウトプットでやりました、できましたという結果しか行っていませんが、今後は参加した人が満足したよとか、これを利用して自分の表現ができましたというようなアウトカム表現ができるような計画となるといいとは思っています。

会長： 委員の皆様、他にご質問ありますでしょうか。3年前の計画で現在のところ、3年間の実施は見通し通りできるであろうということですが、今回の趣旨はこれを受けて来年の4月からの新しい情報化計画をどう作っていくかということだと思います。また、来年を見つづめていくかということがこれからの議題になっていくと思います。そういう意味では前回も行いましたが、3年間経って市民の皆さんの意識や考え方がどうなっているかということをしきんとつかまないと行政や私たちだけがあれこれ言っても難しいと思います。やはり多治見市の中で生活し、仕事をしている方々がどう感じているかを把握し計画を作っていくと、計画自体が絵に描いた餅になってしまいます。それでは議題の4番目の「市民アンケートの実施について」を事務局の方からご説明をお願いします。

4. 市民アンケートの実施について（事務局説明）

会長： ありがとうございます。説明がありましたのは平成28年度の調査との経年変化をみたいということでしたので、大幅な質問内容は変えることなく、しかしながら全く同じではもう時代に合わないものは入れ替えつつアンケートを作成したということでした。委員の皆様、何かご意見・ご質問ありますでしょうか。

委員： 問9のところが多治見市はフェイスブック、インスタをやっているということですが、利用者数がフェイスブックもツイッターもそんなに変わらないです。私は年齢層がフェイスブックは高齢の方が多く、ツイッターは若い方が多いような気がします。このアンケートは年齢別に10代から60代までやられるとは思いますが、回収率としてはきっと若者の回収率が少ないような気がします。ただこういったことは若い方が牽引していることなので、なるべく若者の意見を聞きたいと思います。そのため問9のこれからの広報手段として、どれに力を入れるべきだと思いますかという質問の回答の選択肢に「フェイスブック」だけしか入っていませんが、これは何か意味がありますか。

事務局： 多治見市の公式としてはツイッターはやっていません。

会長： 選択肢はどうするかはともかく、今言われたように若者や一般的には不特定多数への情報発信や情報収集はツイッターが多いです。フェイスブックは、お互い知り合っている人とのコミュニケーションツールになっていると思います。広報的なものとなれば本当はツイッターの方がいいと思います。

委員： 中央線が止まったなど何か事が起こればまずはツイッターで確認します。ツイッターは生の声が聞こえるからいいという声を聞きます。アンケートをやる場合も市役所がやっているのがフェイスブックだけということなので、各部の連携であるとか、そういったこともお願いできればと思います。

事務局： 実際に災害時に非常に効果があったという実績も確認しています。しかしながら、市という体制の中で即時性で回答していくものの責任の所在など、多治見市としてはまだそこまで

議論になっていないというところが正直なところでは、そのためツイッターについては、二の足を踏んでいるような状況です。よくゆるきやらがツイッターで反応しているというところもあります。そういうものであれば現在、観光協会ですべてやっています。それでもある所では言葉の使い方で炎上してしまっていることもありますので、行政としては飛び出す勇気が必要になってくると思います。今、SNS の話が出ましたので、参考までにフォロワー数を言いますと、Facebook は 1,400 人、YouTube は 79 人、インスタグラムは 1,305 人が使っているという状況です。もし委員の皆様も QR コードで是非参加をしていただきたいと思います。

会 長： 細かいことですが、YouTube というのはひとつの単語なので、間のスペースはいらないです。今ご説明いただいたツイッターのことに关しましては、市としてもやるという答えについて明言できないということのようです。

事務局： ツイッターはほしい気がします。また LINE でもいいかなと思います。

会 長： LINE は SNS と思っていませんでしたが、オープンチャットを入れたことによって名実ともに SNS になってしまいました。よりやばいツールになったと感じます。最近では企業も使っていますが、専任の市の広報担当の職員をつけないと難しいと思います。

委 員： 26 ページの資料をみると LINE の利用率は高いです。先程課長がツイッターは即時性がないと言われましたが、それはチェック機関が市の中でないから緊急の発信できないということですか。

事務局： はいそうです。一方的に Facebook だと出せますが、ツイッターの場合は対応になります。その場合、市は担当課が係長、課長、部長まで出て初めて市の方に出ていくという手続きが必要になるので、即時性がなくなってしまいます。

会 長： SNS を利用するということは今までの庁内における文書決済の手続そのものが時代遅れだと思います。担当者がその時の思いや願いや伝えたいことをその人の権限でやるということ承認して、まずかった時は全体で責任をとりますが、その人の判断によってやる、権限を与えないといけない時代だと思います。

事務局： おっしゃることはすごくわかりますが、多治見市としては実現できないというのが現状です。

会 長： LINE は親しい知人や家族との利用が多いので相対的に利用が増えていますが、第三者とのつながりに LINE がつながっているケースはあまりありません。企業が LINE をやるのは登録するとクーポンがもらえたり、スタンプがもらえたりと実利的なメリットがあるからやるのであって、それがなければ LINE では繋がらないと思います。LINE で広報するというよりは Facebook につないだり、ツイッターの利用を考えていただく方がいいと思います。

委 員： このアンケートで推移の変化を見たいとおっしゃったのでそれ以上何も言えないのですが、前回の回収率が 36.8% で、よその市を調べても低いわけではありません。1 つ気になったのが、問 2 の「多治見市の行政について何で知りますか」に対して、前回はほとんどが「広報たじみ」でした。それについてなぜ広報たじみを見るのかという設問を追加したらどうでしょうか。私の場合は何を望みますかと言われるれば、1 年分ぐらいのバックナンバーをつくってほしいです。あの時にあったのが見ることができるといいと思います。

事務局： ご意見頂きましたので、広報担当の方に伝えます。HP 上でもマチイロというところから広報を見ることができます。

会 長： 私自身は紙の媒体はなくならないと思っています。紙の媒体と他の媒体との最大の違いは紙は再生のための道具でもあります。他のメディアはスマホやテレビなどですが、紙はそれ自体が情報再生のメディアになっています。そのためにパソコンを起動したり、スマホをタッチする、テレビの電源を入れる等をしなくても、紙はそれでも見ることができます。

会 長： 時間も迫ってきましたので、他に何かお帰りになってからでも気づいたことがございましたら事務局の方にご連絡していただけたらと思います。それでは今後の予定等について事務局よりご説明の方、お願いします。

5. その他

事務局： どうもありがとうございました。今、会長さんからお話がありましたようにもう少しアンケートの方は発送までに時間がありますので、もしご意見等がございましたら事務局の方にご連絡していただけたらと思います。次回は10月に予定しておりますので、近いところで日程調整表の方をお送りさせていただきたいと思います。それでは以上をお持ちまして第1回の多治見市地域情報化推進懇談会を終了させていただきます。みなさんありがとうございました。